

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000022		
法人名	有限会社 永真会		
事業所名	グループホーム磯城		
所在地	奈良県磯城郡田原本町阪手496番地の1		
自己評価作成日	令和4年6月16日	評価結果市町村受理日	令和4年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を理解して頂くために入居者全員で意見を出しあい、四季折々の風景や花などを折り紙やイラストを作成し、施設内に展示している。個人の能力を生活に活かし、その人に合った過ごし方ができる様に職員全体で支援するように努めている。施設内の生活だけでなく楽しく過ごして頂けるように、車で遠出をして1泊の旅行に出かけたりしている。重度の方にも対応しており、元気な方と共同生活し食事やレクリエーションにも職員と一緒に参加して頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カオア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和4年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清潔感があり、家庭的な雰囲気の良いホームです。国道沿いの便利な立地で、家庭菜園もあります。「自分らしく」を大切に、毎日のレクリエーションはもちろんのこと、月に1回は映画鑑賞の外出やおやつパーティーなどの実施があり、1泊旅行に利用者全員で出かけておられます。全員対象のレクリエーションだけでなく、利用者の希望に応じて、外出支援を個別に対応されています。重度化への取り組みも熱心にされており、重度化されているご利用者も旅行へ参加できるように工夫されたり、希望されれば、ホームで最期まで暮らすことが出来ます。利用者職員は家族のような関係性を築かれており、利用者は安心して自由に、穏やかに過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で共に生活している住民として地域との関わる機会を多くしながら認知症への理解を深めてもらう。	ホームの入口に理念を掲げている。「自分らしく」ということを大切にされており、職員会議等でも理念を共有しておられます。常に理念に沿ったサービス提供が出来るよう、職員が積極的に話し合い、実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の掃除行事に参加させてもらっている。	地域の自治会に参加され、自治会からは、地藏盆などの催しにホームの利用者が参加出来るよう、お声かけ頂かれています。地域の清掃活動にも、職員が参加し、積極的な交流をはかられています。	次年度は、ホームを移転されると伺いました。新たな地域でも、地域の皆様とともに暮らしていける関係づくりに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の様子をみたり会話をとおして認知症についての理解を深めてもらうため、施設の催し等に参加してもらう機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、自治会や行政との情報交換や意見交換を行い施設運営に取り組んでいる。	コロナ禍になってからは開催できず、文書での報告をされています。通常時は、自治会長、副会長、民生委員、社協職員、役場職員、家族代表、ホーム主任か代表者が参加され、積極的な意見交換がされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の現状報告やサービスのあり方等を常に報告し、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議に町職員が参加されています。また、入居者の現状報告等も積極的にされ、常に市町村との連携をはかられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を深める為に、話し合いの場を設けて、検討しながら見守り等でのケアの仕方を工夫している。	職員会議等で、身体拘束についての研修会をし、理解を深められています。玄関に施錠はせず、ご利用者には自由に過ごしてもらえるよう配慮されています。施錠しないことによるトラブルが起こった際には、見守りの方法などを検討し、ご利用者の自由と安全が両立出来るように取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士の話し合いを日々行い、意識の統一をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や書類等を利用しながら、制度についての勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安に思うことがないよう、納得していただけるまで説明を行い、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等があれば電話もしくは訪問して頂き話し合う機会を設けるようにしている。	利用者家族には、1か月に1回ホームへ来てもらう仕組みをつくり、ご家族とお話をする機会を設けておられます。ご家族の意見をお伺いする機会とされています。また、頂いたご意見については、反映できるように取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談の時間を設け、意見や提案を聞き出来る範囲で反映させている。	職員の意見を聞く面談の時間の設定をされています。また、代表者が積極的に職員との会話の機会を持ち、話しやすい関係性を構築されており、業務に関する積極的な提案が職員よりなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションを取り、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握する。向上心を持って働けるよう、悩みや相談事があれば面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して様々な職員研修を計画的に実施、または外部研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員とお互いの施設における活動内容等の意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人に困ったことや不安なことがないか、要望があれば解決するまで話し合いを重ねて、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なことがないか尋ね、安心して話が出来るよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な支援が求められる場合には、他施設や在宅サービスについての説明を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、掃除や洗濯たたみ、食器洗い等を職員と行い、一緒に生活しているというように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話しやすい雰囲気作りを心掛けると共に入居者、職員、家族の信頼関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が希望すれば、できる範囲で馴染みの人に面会に来てもらい話をする。	馴染みの散髪屋や、墓参り、スーパーへの買い物など、利用者の希望に応じて、ホームの職員が個別に付き添い、入所前の関係性を途切れさせない支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションを通じて、利用者同士が関わりを持つ時間を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡等で困った事や悩み事等がないか傾聴するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努め、検討する場も設けている。	日々の何気ない会話の中から、思いを把握できるように心がけておられます。イベントを考える時、例えば映画を観に出かける会を立案する時は、利用者会議を開き、利用者の意見を反映できるように取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を本人や家族から聞き、出来るだけ入居前の生活環境に近づく支援を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握し、変化が生じればその都度話し合いの場を設ける。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体でカンファレンスを行い、入居者のケアの内容について家族等からの意見も交えて検討を行っている。	ケアマネジャー1名、計画作成担当者4名が在籍しており、計画の作成をされています。ケアカンファレンスには、看護師、担当職員、家族にも参加してもらい、ケアの内容を検討されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の言動、行動を記録し職員間の情報交換や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、利用者や家族の希望があれば出来るだけ添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は物作りをして協働出来ていたが、最近ではコロナ禍もあり貢献出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望すればそのまま継続して頂き、特に希望がない場合は協力医をかかりつけ医として、月2回の往診と特変時の対応も行っている。	希望があればかかりつけ医への受診を継続できる体制を取られています。協力医の月に2回の往診と合わせて、入居者の健康管理に努めておられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携を取りながら日常の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報交換や相談等を行い、退院時の受け入れもスムーズにできる様に心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為や管理が必要になった場合、家族と話し合い医療機関への入院が主になっている。	要介護5の入居者もおられるなど、重度化が進んでいます。また、看取りケアに関してもご家族、ご本人の意向を踏まえて各専門職種で連携し実施されるなど、人生を“自分らしく生き切る”ことができるように支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修を行い、マニュアル等も作成し訓練も行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を行い具体的な避難方法についての話し合いをし、地域の方々にも協力を得られるように努めていく。	消防署指導のもとでの避難訓練を年1回と事業所独自の訓練を年2回実施されており、自治会の参加もあります。また、災害の発生時に備えて、屋内と屋外に備蓄もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、一人ひとりの言動を配慮し人格を尊重しながら対応している。	“自分らしく生活できるように”という理念のもと、個々の人格を尊重した援助を大切にされています。また、プライバシー保護に関して研修を実施するなど、取り組みの強化に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の希望自己決定できるように意図的な声かけをするように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、就寝等の時間は決めていますが、その時々々の体調や希望により臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数ヶ月に1回訪問理容を使用しており、行事や外出時には自分好みの服を選んでもらっている。女性の方は、化粧もされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等を職員と共に行っている。	畑で栽培した野菜を収穫し、入居者が職員とともに調理(皮むきなど)を行うなど、生活の中の一つとして定着しています。個別の食事形態などにも対応しています。また、ホットプレートを使ったおやつ作りなども楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の栄養状態、摂取量を把握し食事形態の変更もその都度行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き。義歯の方は、夕食後毎日義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、失敗を減らすための声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。	可能な限りオムツ外しが実践できるように各自の排泄パターンを把握したり、職員2人介助にてトイレに座って排尿を促す(トイレに座る習慣を維持する)など、積極的に取り組んでおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫や運動等を行い、排泄状況の記録も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を尊重するようにし、事故のないように見守りや介助の支援を行っている。	週に2回のペースで入浴されています。ジェットシャワーを導入することで重度化されたご利用者も入浴を楽しむことが出来るように配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望時はゆっくり休んで頂いており、夜間は本人の体調、生活習慣、気分に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧を作り、一人ひとり服用している内容を把握するようにし、変化があれば主治医等に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯たたみ、食器洗い等、個人の得意分野を活かせるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出支援は難しいが、通常は、桜並木を散歩したり、レクリエーションで気分転換を図っている。	月に1回は映画鑑賞・外食に出かけたり、1泊旅行に利用者全員で出かけられるなど積極的な外出支援に努めておられます。(観たい映画、食べたいものを皆で話し合いながら決定するなど、当たり前の暮らしを当たり前継続できるように支援されています)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はトラブルの原因になる為、家族に返却している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いのはがきは必ず書くようにしており、必要であれば電話もかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁画や飾り等を作成して頂き、音楽や照明は入居者の意向を確認し調整している。	温かみのある雰囲気が入居者が安心して生活できるように配慮されています。特に浴室は採光面積が広く、気持ち良く入浴できるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士同じテーブルに座って頂いて会話を楽しんでもらう。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族と相談し自分の気に入った部屋にされている。仏壇を置いている方もおられる。	寝たきりの方(ご自身で体温調整が難しい方)の居室壁面には湿気を吸収する特殊タイルを用いるなど心地よく過ごすことができるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり等を設置し安全に生活できるようにしている。		